

でもうれしかったと母とおばから何度も聞かされました。彼女からは精いっぱい生きることの尊さを教えてもらいました。

正直私は死んだ妹のことをほとんど覚えていません。しかし母が毎月命日にお経をあげたり、いつもご飯を少しよそって妹の分をつくったり、どこかへ遊びに行ったり、妹の分もお土産を買ったりすることから、今もどれだけ愛されているかがとてもよく分かります。妹は生きたかったです。みんなとご飯を食べてお出かけもしたかったです。生きたくても生きられなかった妹の思いを受け継いで私は強く生きたいです。

私は妹たちと比べるとはるかに恵まれています。そして妹たちのおかげで自分が恵まれていることに気付きました。そのことを「よかった」「うれしい」と思うだけではなく、そんな恵まれた私に何ができるのだろうと考えました。そんな時、校外学習で京都の平和ミュージアムに行き、たくさんの生きたかったけど生きられなかった人々の写真を見ました。そこで青年海外協力隊に入るという1つの選択肢を見つけました。

どんな人にも当たり前の幸せをつかむ権利があります。だから私



は1人でも多くの人が幸せをつかむことをその道で支えていきたいと思っています。それが当たり前の幸せを持ってた私ができる何かだと思います。足が自由に動きます。手も自由に動きます。笑うことができまします。思ったことを伝えることができます。「幸せって何ですか？」と聞かれたら私は迷わず答えられます。「今ここで元気に生きていくことです」。そんなふうに答えられる人を、自分の手で増やしていきたいです。

入賞者(南丹市内中学校)

◇京都府教育委員会教育長賞◇

「諦めず前を向いて」 南丹市立美山中学校3年 大野 扶美可 さん

◇京都市PTA連絡協議会会長賞◇

「我が家の年賀状」 南丹市立八木中学校3年 藤林 千工 さん

◇京都新聞社賞◇

「福知山線脱線事故」 京都府立園部高等学校附属中学校1年 林 つかさ さん

◇KBS京都賞◇

「自転車に乗って」 南丹市立美山中学校2年 竹村 花菜 さん

◇京都府青少年育成協会会長奨励賞◇

「なすべきこと」 南丹市立園部中学校3年 小齊 仁 さん

「ぼくたちにも選挙権を」 京都府立園部高等学校附属中学校1年 森 樹 さん

「本当の心のつながり」 南丹市立園部中学校3年 近藤 楓 さん